

「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」策定に関する意見の募集
(パブリックコメント)の実施結果について

1 意見募集方法

(1) 意見募集期間

平成26年2月24日(月)～平成26年3月15日(土)

(2) 意見募集の周知方法

環境省ホームページに掲載

記者発表

(3) 意見提出方法

郵送、ファックス又は電子メール

2 意見募集の実施結果

(1) 意見の提出者数 6

【内訳】 大学 1

団体関係・NPO 2

自然保護団体 3

(2) 意見の件数 20

(3) 意見の内容とそれに対する考え方：別紙のとおり

意見の内容とそれに対する考え方

該当箇所	意見の概要	件数	意見に対する考え方
章、2. 低い繁殖成功率	コアジサシの繁殖率の低さについては、チドリ目の中でも特にカモメの仲間は寿命が長く、繁殖環境が不安定で本来繁殖成功率がそれ程高いものではないことについて、説明が必要ではないか。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。
章、3. 繁殖の阻害	繁殖の阻害の要因として、(1)人為的な影響、(2)天敵の影響、(3)採餌環境の影響があげられているが、造成地においては使われている土の種類によっては水はけが悪く、少しの雨で水没し栄養を失敗する例がある。従って、「(4)繁殖地土壌の影響」を追記すべき。	1	造成地の土壌は人工的に一時的に現れるものなので、原文のままとします。
章、3、(1)、環境調査による影響	多くの環境調査は繁殖等に影響が出ない、あるいは少なくなるように行われているはず。もし、調査によって繁殖率が低下したなどといった事実が確認されているのであれば、示していただきたい。環境調査は保全活動のあり方についても言及していないか。この項目は削除すべき。今後の保全を考えたときに客観的根拠を失いかねない。	1	当該箇所は、主に環境アセスメントの調査の際、知見に乏しい調査員の調査により、繁殖活動に影響を及ぼすことを記載しています。ご意見を踏まえ、「知見の乏しい調査員が調査の際コロニーに立ち入り、巣を確認するなどの作業を行った場合」と修正しました。
章 コアジサシ繁殖地の保全方法	より重要なことは、行政・地方自治体の関係者がこの「最も重要なのは繁殖地の確保」ということを認識することである。従って、P11、3行目に、「そしてこれを確実に実行するためにより重要なことは行政・地方自治体の責任者が関係者に対して繁殖地確保の周知徹底を図ることである。」を追記すべき。	1	当該箇所は、コアジサシ繁殖地の保全方法について、記載している箇所なので、原文のままとします。なお、本書は地方公共団体等の関係機関に配布し、周知を図っていく予定です。
章、1、(1)自然環境	コアジサシ繁殖地の保全・配慮にかかわる主な関係者に「行政・地方自治体」が入っていない。種の保存法で規定されている種でもあり本来は行政が積極的に保護活動に加わるべきと考える。P11、最後の行に「行政・地方自治体の環境担当者」を追記すべき。	1	海浜、河川の管理者には行政・地方自治体も入っているので原文のままとします。
章、1、(2)、図10. 埋め立て地など事業用地における保全・配慮の流れ	「卵やヒナが認められる時点で繁殖活動を妨害する行為」は鳥獣保護法に違反する可能性が極めて高いため、「卵やヒナが認められる時点で繁殖活動を妨害する行為は、鳥獣保護法に違反する可能性が極めて高い。」と修正すべき。	1	「極めて高い」かどうかは、現地の状況によるので、原文のままとします。
章、1、(3)、図11. 人為による創出環境下における保全・配慮の流れ	「主な関係者」に行政・地方自治体が入っていないため、「行政・地方自治体の環境担当者」を追記すべき。	1	主な関係者の土地管理者には、行政・地方自治体も入っているので、原文のままとします。
章、2. コアジサシ繁殖地の保全・配慮の具体的手法	取り組みは、誰が実施することが望まれるのかあいまいである。コアジサシ保護には行政が積極的にかかわることが望ましいため、2行目に「以下の取り組みは、コアジサシ等鳥類の専門家の指導を受けて行政・地方自治体の環境担当者が積極的に実施することが望まれる。」と修正すべき。	1	コアジサシ等鳥類の専門家の指導を受けて実施するのは、幅広い関係者を想定しており、行政・地方公共団体だけではないので、原文のままとします。
章、2、(1)、繁殖地の創出	コアジサシに限らず、洪水による氾濫など定期的な攪乱によって生息環境が維持される動植物は、全体的に減少傾向にある。すなわち、攪乱生態系を取り戻すことがコアジサシの繁殖地創出であると考えられる。九十九里浜などこれまでコアジサシが繁殖したことのある、もしくは現在も繁殖している河川をひとつのモデル地域として、治水に配慮した上で、河川の水位を調整して一定の水位変動を起こすことで、攪乱生態系を作り、コアジサシの繁殖地を創出することを提案する。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。

章、2、(1)、繁殖地の創出	「災害を受けにくい」の表現ではどんな災害かがあいまいである。特に多い災害は水はけの悪い造成地に営巣した後に雨による水没であることから、P17、8行目に「水はけがよく水没しにくい」を追記すべき。	1	ご意見を踏まえ、修正しました。
章、2、(4)、事業用地の一部を繁殖利用させる場合	「建造物屋上を繁殖利用させる場合」についての記述がないので、「コアジサシは飛来する場所にある建造物の屋上にも営巣することがあるため、建造物屋上に砂利を敷き詰める工法等により人為的に営巣場所を造成する。」等の文面を追記すべき。	1	建造物の屋上に人為的に営巣場所を造成することについては、P15、(3)、建造物の屋上の場合に記載しているので、原文のままとします。
章、1、(3)モニタリング時の記録写真	「行政庁の許可を得た場合」など、行政の関与と責任が重くなることには疑問も感じる。相応の見識が行政庁にあるのか。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。
章、6、非常時の人工飼育	捕獲などの法的手続きの簡素化を図り、動物園との連携も視野に入れ、一刻も早く人工飼育のマニュアルを構築すべきと考える。特に長距離飛行訓練が整った施設等の整備を急ぎ、コアジサシの危機的状態を回避すること望む。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。
全般	コアジサシをはじめとする砂浜など同様の環境で繁殖している種について、現在最も大きな影響を及ぼす工事や開発事業の大半を占めているのは、国交省や都道府県および市町村の土木や建設を担当する部署で、主にこうした行政機関を対象にした野生生物の保護指針を示すことこそが最も重要である。	1	本書は、地方公共団体等の関係機関に配布し、周知を図っていく予定です。
	「専門家」もその定義は極めて曖昧で、多くの場合、生態系全体に関する理解がかなり低いようである。特に日本の各地域で自然および人的環境が異なるので、対応はシンプルではなく、さらなる啓発活動などが必要である。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。
	写真や図の鮮明度が低くので、評価ができない。また、コアジサシの保護について知りたいと興味を持つ方々には不親切であるので、高解像度の図表に換えていただきたい。	2	可能な限り順次、高解像度の図表に修正したいと考えております。
	屋上をコアジサシ(チドリ類含む)誘致のため、砂利を敷いたり、形状を誘致しやすくした場合には、補助金を出すなどの優遇処置をとることも、考えても良いのではないかと。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。
	埋立地においては、県や市、工事関係者や土地所有者・管理者との協議し、ほとんどのところは、工事を延期したり、影響のない場所から作業を行った。しかし、保護者側と土地管理者とのトラブルが発生し、裁判沙汰になったこともある。保護者側も事業者側も双方理解し、繁殖が成功するよう協力すべき。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。
	コアジサシ保護のためには、鳥獣保護法の徹底が大事である。	1	今後の業務の参考とさせていただきます。